

トップコミットメント

■持続可能な社会にむけた大学の役割

前世紀において、人類はエネルギーと資源を浪費し、その急激な発展が地球社会に大きなストレスを与えることになりました。21世紀、人類はそれに対してしっかりと対処し、持続可能性を追求していかなければ、地球社会はその生命を維持できなくなるでしょう。

京都大学の基本理念は、地球社会の調和ある共存をうたっています。持続可能な社会のためには、まずこの地球社会の調和ある共存を目指すことが必要です。そのためには地球社会のことをさまざまな面から知らなければなりません。そこにはだれも知らない問題があり、なかなか気づかない問題があり、疑いをもっていても証明ができていない問題があり、誰かが気づいていても隠れている問題、一部の専門家の訴えが広く伝わっていない問題があり、ときには意図的に隠された問題、改ざんあるいは捏造された問題などがあるかもしれません。それらに一つひとつ、あるいは総合的に取り組み、その成果を広く社会に問うとともに、後世のために蓄積していくことが大学の使命でもあります。このようにして大学がもたらす知は、地球上の異なった歴史文化を持つ人々との相互理解や共通の利益に向けた協力を促すものであり、「地球社会の調和ある共存」、ひいては「持続可能な社会」に貢献できるでしょう。



■3つの方針を引き続き推進します

一年前、京都大学は初めての環境報告書を公表いたしました。その中で「環境負荷の低減」「人材の育成」「情報の開示」という3つの方針をお示ししています。2006年は、すべての活動の基礎となる環境マネジメントシステムの構築に取り掛かりました。大学の環境に与える影響を評価したうえで、具体的な環境目標を設定し、その目標実現にむけた活動を現在続けています。これらの取り組みを今後さらに進めていくことが、先の3つの方針実現への一歩と考えております。

2006年度の本学の活動を紹介した本報告書への忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

京都大学総長

尾池 和夫

祝い箸のなぞ

日本の人工林は、木材を伐採しても採算が合わず、適切な管理が行われなくなっています。人の手が入らない人工林は、生物多様性の低い、非常にびっつな森になってしまいます。京都大学では、人工林の適切な間伐と、その間伐材の有効利用の道を探っています。その一つの成果として、本学和歌

山研究林間伐材の端切れを使って作った祝い箸が、2006年度の卒業生に贈られました。

この箸は、森が炭酸ガスを固定してできたものです。地域や地球環境と人間の関係について卒業生の皆さんにも考えてほしいとの思いが込められています。



→詳細は30ページ